

自分にとっての優しさ

(原文)

足立 堅 (15 歳)

日本<英国ウエスト・サセックス州在住>

立教英国学院

私にとって優しさとは、人に優しくすることのほかに、人にしてもらった親切などに感謝すること、人の過ちを許すことです。

そう思うのは、人に感謝することで、感謝された人がまた誰かに親切にしようと思えるからです。人は自分がしたことが、人に喜ばれたり、感謝されたりすると、もう一度それをしたいと感じるそうです。実際に自分も電車で人に席を譲ってお礼を言われたとき、素直にうれしいと感じました。そしてもっとそれを人にしたい、喜んでもらいたいと思いました。許すことも同じような理由です。人は、許してもらおうと人はそれに感謝し、反省することが多いです。そしてもう二度と同じ過ちを犯そうとは考えなくなります。聖書には、右の頬を叩かれたら、左の頬をも差し出さなさい。上着を奪う者には、下着も差し出さなさい、という言葉があります。私は、この言葉を、自分に悪いことをする人に対して、憎しみや怒りで返すのではなく優しさをもって接しなさい、ということの例えだと思います。おそらくここでの優しさとは、許すことです。これらのことから、私はこの二つが優しさだと考えます。

そして次に、優しさのあふれる社会を作るには、どうすればいいのかということです。私は先ほども述べたのうに、感謝すること、人を許すことが優しさだと思っています。そのため、優しさのあふれる社会とは、人が人を許し、許された人が、それに感謝し、反省することのできる社会のことだと思います。

しかし、世の中には、どうしても許しがたい出来事や、悪事があるのも事実です。殺人やテロ、悪質な詐欺や嫌がらせ行為、いじめなどがそれに入ると思います。けれども、それらやその他の過ちに対し、憎しみや復讐心、怒りをもって、やり返そうとしてしまうのも、またもう一つの事実です。悲しい事に人は、これらの復讐がなんら意味を持たないこと、無駄な争いを生むことを分かっているが、いざとなったときに、そうなることを忘れ、必死に復讐しようしか考えられなくなってしまいます。これにより人は、何度も同じ歴史を、争いの歴史を繰り返してきました。いわば、復讐の歴史です。世界の争いの歴史はこうして出来あがってきました。しかし、もしそこで、感情にとらわれずに正しくその相手を裁き、許すことが出来れば、裁かれた相手はその優しさ感謝し、反省するので、全ての人がその人に普通に接することが出来、その人も二度と悪いことをしようと思わないと思います。つまり、過ちを犯してしまった人にも憎しみや怒りなどで復讐しようとするのではなく、正しくルールに従って罰

することでその人を許すことが出来れば、私の思う優しさのあふれる社会を実現することができると思います。

しかし、この社会が実現すると、ある問題が発生する可能性があります。それは裁かれた人が、許されたことに感謝せず、また悪事を働くという可能性があるということです。実際に、恩を仇で返すということわざがあるように、そういうことをしてしまうことが少なからずあります。これらの問題の解決法ははっきり言ってわかりません。この問題の解決法はこの社会が実現した時、第一に考えるべきことだと思います。そして、このような社会を実現するのは、自分たちであるということ、これが一番重要なことです。そのため、私たちには、今のうちから、社会の仕組みについて学校の勉強などを通して深めていくことが、求められていると、私は考えます。